

# 小児がん 亡き娘から学んで



中学校で講演する鈴木中人さん＝NPO法人「いのちをバトンタッチする会」提供

## 体験語る父、中学生向け副教材

小児がんで亡くなった娘の物語から病気を  
知り、命の大切さを学んでほしい。そう考  
えた名古屋市のNPO法人代表、鈴木中人さん  
(58)が、教育学者や医師らと小児がんの副教  
材づくりを進めている。4月から希望する全  
国の中学校に無料で配布する予定だ。

景子さん＝鈴木  
中人さん提供



鈴木さんの長女、景子さんは  
3歳のときに発症して入院。1  
995年、6歳で亡くなった。  
6歳の誕生日に「せめて一度花

嫁姿を」と、母親が買ってきた  
ウェディングドレスを着て記念  
撮影した写真が遺影となった。  
娘から託された「バトン」と  
して命の大切さを伝えたいと、

2007年にNPO法人「いの  
ちをバトンタッチする会」を設  
立。学校や企業で千回以上、延  
べ約20万人に、自らの体験を講  
演してきた。

そんななか、文部科学省の有  
識者会議が昨年、学校で子ども  
ががんを学び、健康と命の大切  
さを考えられる教育を、と提言  
した。「これまでは学校で命は  
語れても、死を思わせるがんを  
説明することは難しかった」と  
鈴木さん。がんを正面から扱う

好機だと、教育学者や教育委員  
会の指導主事、医師、元校長ら  
に協力を仰ぎ、冊子やDVDを  
つくり始めた。  
テキストでは小児がんについ  
て「毎年約2500人の子とも  
が発病」「70〜80%は治る病  
気」と紹介し、景子さんとも  
に、病気を克服した子どもの話  
も掲載。命とは何かを問いかけ  
る構成にしたという。

「先生方にも家族を失った体  
験があるはず。命を大切に思う  
自身の心をのせて生徒に語りか  
けてほしい」と鈴木さん。道徳  
や保健体育、総合的な学習の時  
間で使ってもらいたいという。  
副教材は冊子と指導案、DV  
Dのセットで、いのちをバトン  
タッチする会と、小児がんの子  
どもを支援するNPO法人「ゴ  
ールドリボン・ネットワーク」  
の共同発行。2万セットを用意  
するほか、バトンタッチする会  
のサイトからもダウンロードで  
きるようにする。問い合わせは  
同会(052・581・8668  
6)へ。  
(氏岡真弓)